



「義」

今

月は「義」について学んでいきましょう。

義という漢字には「ただし、よい、神意にかなう」「法則、道理、つとめ」という意味があります。また、「義務」「義理」「正義」など、人として果たすべき務めや

正しい行いを指す言葉によく用いられます。

解脱会で説く「義」とは、神仏から見て正しいことや果たすべき行いを、何よりも先に果たすことです。このことを金剛さまは「義務先行」という言葉で教えています。逆に言えば、いくら自分がやりたくても、神仏から見て正しくなければ決してしないことがあります。

終わらせようと張り切って始めたはずが、友達との外出や家でゲームに夢中で過ごすうち、気がつけば夏休みも終わりに近づき、山

と残った宿題に頭を抱えた経験はありませんか？

人は「やりたい・やりたくない」という自分の気持ちに行動を左右され、判断を誤ります。だからこそ、神仏から見て正しい行いとは何かを見定め、果たしていく「義」が重要です。

とはいっても、神仏から見て正しいかどうかなんて、よく分かりませんね。神仏の視点を考えるキーワードは「共存共榮」です。私はちは、その共存共榮で成り立つ社会の中で、それぞれが担う役割（義務）を果たし、互いに助け合い支え合って生きています。そのため、自分がだけが良ければいい、自分が好きなことだけをしたいという自己中心的な考え方ではいけません。だから物事を判断する時には、「自分」ではなく「他人や周囲」

がよくなることを基準にして、今、自分がすべきことは何かを考えましょう。

大祭などの行事における青年部奉仕でも、「せっかくの休日、友達と遊びたかったなあ」と後ろ向きな気持ちで参加するよりも、会員さんの方のために陰ながら働くこの奉仕が、行事全体にとって必要不可欠な「翼」を担っていると自覚して取り組めたなら、同じ奉仕でも過ごす時間の質ががらりと変わります。

その場で何が「義」であるかを自覚し実行できる人は、奉仕に限らず、家庭や社会でも役立つ人間です。今一度、自分の行動を見つめ返し、自分が本当にすべきことを考えてみましょう。

◎自分がすべき「義」について、思いつくだけ紙に書き出し、優先順位を話し合ってみよう。